

地域に役立つ図書館の情報発信・試行錯誤

石井 芳枝

1 図書館の可能性を実現する～お金をかけずにできることから～



宇佐市は現在人口約6万人、宇佐市民図書館（本館）は一部2階建て建築面積2,580㎡現在の蔵書は23万冊です。2005年3月31日、宇佐市は安心院町・院内町と合併しました。市域は倍以上に広がり分館も2つ増えました。

私の本来の業務は児童サービスです。学校に利用案内やブックトークを行っています。この年の4月23日、宇佐市民図書館は「子どもの読書活動優秀実践図書館」

として文部科学省より表彰されていましたが、それ以降、資料費はどんどん減り続け、平成18年度には決算額で全国平均を下回りました。課長級である歴代の館長が直談判しても同様でした。

2006年3月これからの図書館の在り方検討協力者会議による報告書『これからの図書館像～地域を支える情報拠点を目指して～』の第一章では「図書館を図書を貸し出すだけの施設と受け止めている方も少なくないと思います。しかし、図書館は、もっと多様な可能性を持っているのです。地方分権が進む現代の社会においては、それぞれの地方公共団体が独自に情報収集を行い、現状判断や政策立案を行うことが必要になってきています。また、行政への住民参加が進む中、住民が自ら必要な情報を収集し、意思決定することも重要になってきています。このために必要となる多様な資料や情報を提供する役割を担うのが図書館です。図書館は、地域の行政や住民の自立的な判断を支える情報提供施設です。（中略）今すぐに地域における図書館の存在意義を明確にし、その充実へ踏み出さないと、今後一層厳しい財政状況が予想される中、改革の機会を長く失い、地域の知的な基盤づくりに支障をきたすことになるでしょう」とあります。

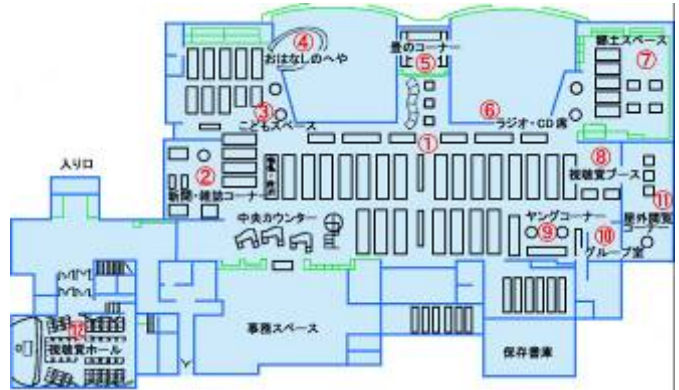
折しも、行財政改革まっただ中。財政が厳しい時期でもありましたが、当市においても図書館費が市民に新鮮で多様な資料や情報を提供するための経常経費としての認識が低かったようです。図書館が「小説を読むための場所」「学生が勉強するための場所」という認識のままでは、情報提供施設としての役割を果たすことはできません。前出『これからの図書館像』の実践例には、地域の課題解決、ビジネス支援をするハイブリッド図書館として、静岡市御幸町図書館や神奈川県光町図書館、行政支援サービスとして鳥取県立図書館などが挙げられています。それらの館のサービスは、同じ日本のこととは思われないほどでした。実績なく予算要求しても無意味です。仮に、要求して通ったとしても、同様かそれ以上の成果を上げられるとは思えない。では、どうすれば良いのか。

「子育ての情報はバラバラで分かりにくいのでは?」「産業関係の本は存在を知られていないのでは?」

図書館がもっと利用者に知ってもらいたい、子育て情報と就業・創業情報を必要としている人にもわかりやすく提供しようと、2006年7月、中央カウンター前・新着本書架の横に「子育て」「ビジネス」のコーナーを設置しました。県立図書館が「子育て情報コーナー」を設置したのとはほぼ同

時でした。

開設は同時でしたが、規模は全く異なります。当館のコーナーはそれぞれ3段分です。子育ては妊娠から入園までで、こどもスペースと雑誌コーナーの近くでもあり、近くには椅子もあります。どちらも基本的に発刊後2～3年「新しい本をワンストップで」がコンセプトで、相互利用できるように隣同士に設置。ささやかなコーナーですが新聞にも取り上げられ、部課長会議等において子育て支援担当課長からも評価されました。



2 「どうすればいい？」生活に役立つ情報を集め、発信する仕組み

ビジネス本を集めても、それだけがビジネス支援ではありません。データベースもない今の図書館で何ができるか。仕事に、地域に役立つと思われる何かをと、ハローワークから金曜日に出る求人情報をもらいファイルを作成し、特設コーナーに置きました。これで土日の来館者も、旧町部にある分館利用者も求人情報を見ることができます。ファイルを利用者が読む姿は度々見られ、ハローワークには独自の雇用情報など様々な資料があることがわかったことが成果でした。

当時の中家館長と宇佐商工会議所に行き、会議所が隔月で発行する「かわら版」に本を紹介するコーナー「図書館の本棚から」を作っていただいたのもこの頃でした。

2007年3月宮崎県立図書館で開催された「ビジネス支援図書館フォーラム in みやざき」に参加したところ、宮崎県立図書館は入り口で地域の企業情報を紹介していました。このフォーラムで強調されていたのは、図書館の敷居の低さと集客力でした。宇佐市は県の中心部から離れているため、情報誌で店舗を紹介されることも稀です。図書館の来館者は年間20万人超。宇佐市の公共施設での入館者数では随一です。

ならば、2Fに併設されているギャラリーで、地域の産業や企業のPRはできないだろうか？

そんな折、宇佐市役所で「役所の底力プロジェクト」参加者が募集されました。採用されれば、企画課の事業として活動に「ふるさと市町村圏基金活用事業」として予算がつくとあって、すぐに参加を決めました。チームを作り、何のテーマにするか検討し、宇佐市の麦と麦製品のPRをすることにしました。宇佐市は麦の生産も大分県の7割を占める最大の穀倉地帯で、7品種が栽培され、そして、日本一の出荷を誇る麦焼酎の蔵元も7つあります。焼酎だけではなく、地元の麦でパンや麺を作ろうとする企業もありました。1次産業・2次産業・3次産業全て揃っているのです。「小学校での麦作りと、Webと図書館での企画展示をして、NHKの『プロジェクトX』みたいに、生産の苦労とか工夫の物語をPRしたら、地元の人にもっと知ってもらえ、買ってもらえるのでは？ 地産地消にも、経済効果もあり、品質向上につながるのでは？」と考えたのでした。当時「6次産業」という言葉は全く知らず、審査過程では市長を含めたプレゼンテーションも予定されており、また、中小企業支援としてアピール力があるかが疑問でした。

ビジネス支援の最前線を知りたくて2008年ビジネス支援図書館推進協議会に入会し、2月に東京で行われた第6回ビジネス・ライブラリアン講習会に参加しました。最終日の講習は「企画力・発

表力養成」でビジネス支援のターゲット事例を発表するワークショップでした。折角の機会なので、翌週に控えていた市長へのプレゼンテーションのリハーサルのため図書館に絞って企画を紹介しました。電気通信大学の竹内会長、御幸町図書館の豊田館長、鳥取県立の小林課長など、日本のビジネス支援を代表する方たちの前で生まれて初めてプレゼンテーションを実施し、「面白い」という反応をいただきました。



企画が通り、2009年3月7日から5月24日までギャラリーで「宇佐七麦の世界展」を開催しました。来場者に関心をもって見てもらえるよう、取材したメーカーから協賛品を頂き、展示を見てクイズに答えると正解者の中から麦焼酎1ケースを始めとした麺、醤油、パン、お菓子など希望する麦製品が当たるようにしました。取材することで、多くのメーカーの努力する姿を知ることができました。44日間で1,575人が来場し、好評でした。一部のメーカーでは展示の期間中売り上げが伸びたと聞きます。また、

企画展直後に雑誌に掲載されたメーカーもありました。

一般向けには2008年度より大分県金融広報委員会の学習グループ「お金を勉強してみよう会宇佐」を開設。図書館主催講座として「新聞の読み方」「保険の選び方」など金融広報アドバイザーとして登録している税理士・行政書士・FPさんの話を無料で聞け、資料も金融広報委員会に用意していただいています。図書館も関連資料を紹介し、またプロの先生から情報を得て最新資料をチェックする機会にしています。

ビジネス支援関連では、2010年1月に開催されたビジネス支援図書館推進協議会が主催するビジネスレファレンスコンクールにも有志6名が参加しました。データベースが無料で使えることが魅力でした。乙咩館長の配慮で職員研修の一環として取り組むことができ、ビジネスの現場での課題に苦戦しましたが、「小規模図書館賞」を受賞できました。データベース等のツールがあれば全国レベルに近い情報提供ができる、という自信を得ることができました。

3 「できることから」自治体内、大きくないから連携できる

2009年10月より公共図書館員のタマシイ塾実行委員会が主催する「公共図書館員のタマシイ塾」に参加しました。私は大学卒業後すぐ司書として宇佐市役所に入り図書館開館業務に携わったため、他業種で働いた経験がありません。ほとんどが第一線で活躍する他業種である講師の視点を知ることが、月1静岡往復を補って余りある大きな収穫でした。医療情報サービスの先駆者である横浜市立図書館の吉田倫子さんからは医療情報サービスの重要性を伺いました。その後、横浜市立中央図書館にも見学に行きましたが、宇佐市で同じコーナーを作ることは難しいと感じました。

どうすればよいのか考えていた時、論文作成の参考にするため懇親会場に同席していた品川区の保健師・荒居詩織さん、滋賀県東近江市立図書館の嶋田学さんから自治体の課題としての医療費等の話を伺い、もしかしたら保健師と連携ができるかもしれないと感じました。タマシイ塾の修了課題でも「保健師さんと減らそう医療費」というサービスを提案したところアンケートでは1位に

なりました。帰ってから市役所同期の健康課の保健師に「医療費を削減するために情報提供する…たとえば〇〇月間に〇〇の情報を掲示することに関心はある？」と相談すると、すぐに上司の係長と一緒に来館して具体的な話となり、一年間月替わりの健康情報の掲示を計画しました。写真は今年6月の展示ですが、お菓子のレプリカとそれに含まれる砂糖を置くなど、保健師のみなさんの創意工夫に驚きます。宇佐市で多い疾病、増加する医療費などの情報を得ることができるようになりました。490 医学書架は図書館中央の目立つ場所にあります。健康情報と関連した本を展示したところ、図書館へのご意見にも「図書館で健康情報が手に入るなんて、県外でも見たことがない」という好意的なメールを頂きました。



4 効果的な連携で狙うは一石二鳥以上～図書館で温泉ダービー～

日本最古といわれる道後温泉がある愛媛県と自然湧出量日本一の草津温泉がある草津町。この2自治体には、温泉の他にもJ2リーグ、愛媛FCとザスパ草津とがあるという共通点があります。この2つの共通点を活かして愛媛県立図書館と草津町立図書館で観光客の逆誘致とサッカー振興を狙って行われた観光エクスチェンジが「図書館で温泉ダービー!？」です。

大分トリニータがJ2になった今年、ビジネス支援図書館推進協議会のメーリングリストでこの取り組みを知り「温泉湧出量・源泉数日本一の大分県をはずして『温泉日本一同士のサッカーチーム対決』なんて！」と参戦布告しました。当市のまちづくり観光課を通して、大分トリニータにも連絡、許可をいただきました。大分トリニータと宇佐市は協力協定を結んでいるとはいえ、本拠地の一部に過ぎません。4月26日に行われた県内図書館の館長会議の場で「図書館で温泉ダービーを行いますか」と提案しました。大分と愛媛の対戦は5月22日。展示期間とGWを考えると4月30日には愛媛県立に参加館を報告しなければならないという急な日程でした。それでも大分県立、日出町立、別府市立、豊後大野市、佐伯市立、宇佐市民の6図書館で開催することができました。複数館が同時開催することは例がなく、大分県でも初の取り組みでした。各図書館の熱意と努力の賜物だと思っています。



愛媛と草津で行われていた展示は、愛媛のホームゲームで草津の紹介、草津ではその逆という形でしたが、もっと利用者に見てもらうため、宇佐市では展示を対戦形式にしました。大分・愛媛の温泉紹介と名所・グルメ紹介をボードに貼り、来館者にポスターなど展示の優劣を判断してもらうのです。エントランスホールに展示すると2週間で1,300枚近くのシールが貼られ、愛媛県・大分県（参加館の地域）のパフレットもほぼなくなりました。

8月21日の大分と草津の対戦は大分県立、別府市立、

由布市立、佐伯市立、宇佐市民の5館で開催することになりました。前回の反応が良かったため、「この展示をドームに持っていっても良いでしょうか？」と大分フットボールクラブに相談したところ、快諾して頂きました。しかし、イベントとして盛り上げるために「もう一つ色を出していただきたい」という提案を頂き、「温泉」色をプラスすることにしました。企画時に7月下旬とあまり時間がなかったため、ツーリズム大分さんに協力を依頼し、「図書館で温泉ダービー」参加地域の自治体や観光協会等に趣旨を説明して、入浴チケットやグッズなどの提供をお願いしました。

当初は「図書館？ サッカー？ なぜ？」という反応だったのですが、当選発表はドームのビジョンで行われることを説明し、PR効果があると合計70の商品提供を頂きました。草津温泉と大分の温泉関連ブックリスト、各館の「図書館で温泉ダービー」展示の紹介も掲示して、応募券には経緯と「宇佐市民図書館主催」の文字を入れました。マスコットのニータンも温泉ダービーをPRしてくれました。当日の「温泉ダービーブース」は広い場所を頂いたため、人の流れからは少し外れた場所でしたが、通りかかった人のほとんどが「面白い」と抽選に参加して下さり、1,258名の応募がありました。大分フットボールクラブからも「選手も参加していないのに1,000人超えるとは成功です」と評価を頂きました。観光パンフなどを持ち帰る方も多くいました。少しでも観光・サッカー・図書館の活性化につながれば、と思っています。



5 利用者に生きた情報を提供するために

図書館が利用者の探す情報を全て持っていることが理想ですが、無理な場合が多いものです。その場合、司書は情報がある場所を知る・見当をつけることが必要です。多くの人がインターネット検索に習熟しつつある現在、司書には単にキーワードを入力するだけでは探すことができない情報の入手と、その情報に付加価値をつけて提供する情報編集能力が求められると思います。

これにはレファレンス能力は必須ですが、本をつないで紹介し、聞いた人が興味を持って「自分で本を読んでもらう」ブックトークに通じるものがあると感じています。これから特に「役立つ良質の情報」がもとめられます。お金はあるに越したことはありませんが、なくてもできることはあります。情報の場所は動くことで探れます。図書館の存在意義を明確にし、可能性を実現しましょう。まずは、できることから。

(いしい・よしえ 宇佐市民図書館)